

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年12月7日

【評価実施概要】

事業所番号	0270101553		
法人名	有限会社青森福祉サービス		
事業所名	グループホーム上磯		
所在地 (電話番号)	〒030-1272 青森県青森市小橋字田川93番地1 (電話) 017-761-3080		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成21年10月22日	評価確定日	平成21年12月7日

【情報提供票より】(平成 21年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 4月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	26 人	常勤	22人, 非常勤 4人, 常勤換算 18.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての1階部分、2階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,900 円	その他の経費(月額)	9,000~冬期15,000 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(9月 1日現在)

利用者人数	27 名	男性	12 名	女性	15 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名		
要介護3	7 名	要介護4	6 名		
要介護5	6 名	要支援2			
年齢	平均 82.7 歳	最低	71 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	森山内科クリニック、仲條歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

青森市の郊外に位置し、海から少し離れた田園地帯に立地し、西に大倉岳や袴腰岳など津軽半島の中心的な山々が見えて、開放感がある。敷地内にはベンチが設置されたり、野菜畑があたりして、利用者の憩いの場ともなっている。現在は車いすでの生活が中心となっている方も多いが、安心して暮らしていけるように処遇されており、家族にも生活の様子が細かく報告されている。利用者の視点にたって、自立支援を促すことを前提に園長をはじめ、管理者、スタッフが介護に取り組まれている。看取り介護についても家族の要望に応じて、医療との連携により対応されており安心できる。外出なども利用者の要望に応じて、体力などを勘案しながら楽しめるように支援されていて、福祉に対する熱意が感じられる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員の研修に関することが前回評価での課題であったが、外部の研修や内部研修も含めて積極的に行われるよう改善されており、職員もその必要性について理解されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義や目的を全職員が理解されており、自己評価は職員皆で話し合い作成し取り組んでいる。評価後も職員会議等で話し合い改善に向けて取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2か月に一度定期的開催されるよう、話題や検討事項を用意し取り組まれている。地域の方と互いの行事の説明や、外部評価での結果を議題にして話し合われている。開催時は前回までの議事内容がわかるように、議事録をファイルしたものを参加者全員に配布して、前回参加されなかった方も内容がわかるように配慮されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	家族が意見を出しやすいように、利用者の生活状況を定期的に詳しく報告し、面会時などの機会を利用して引き出すように努力されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事に積極的に参加するようにしており、グループホームでの夏祭りの行事の際も、地域の方が進んでボランティアで参加してくれるなど、年々連携が強くなってきている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念に、地域密着型サービスとしての役割を踏まえた「地域・家族との結びつきを大切にする」という理念を、新たに作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をいつでも確認できるように、各ワーカー室に掲示している。職員会議やカンファレンス時等、日常的に確認し合い、理念の実現に向けたケアの取り組みが行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域行事や会合へ積極的に参加をしている。地域の方もホームの行事に参加して頂いたり、行事の準備にも協力してくれている。近所の方が時折野菜を持ってくるなどの交流も行われている。地域の方へ広報誌を年2回配布するなどして、ホームの情報提供をしたり、認知症ケアの普及活動も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を全職員が理解されており、自己評価は職員皆で話し合い作成し取り組んでいる。評価後も職員会議等で話し合い改善に向けて取り組んでいる。		
5	6	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催され、町内会長、民生委員、駐在所、入居者、家族等が参加されている。ホームからは行事、ホームの様子、評価の取り組み状況等が報告され、参加者からは地域の行事や意見等が活発に出されている。前回欠席者にも経緯が分かるようにファイルを作成し、会議の際に1人ずつに配布と説明をしてから開催している。		
6	7	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営の事や法的な事など疑問や課題に関して、積極的に電話や直接出向くなどしてよりよい運営ができるように常に連絡をとり相談されている。		
7	8	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や、成年後見制度を利用している入居者がいることもあり、勉強会を実施し、全職員の理解を深める取り組みを行っている。また、入居者や家族にも制度について説明されている。		
8	9	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法に関する勉強会を実施し、全職員の理解を深める取り組みを行っている。また、処遇時においても入居者の皮膚や体の観察を行い、虐待が見逃されることがないようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には入居者と家族に十分説明を行うとともに、疑問や不安に感じている事などについて丁寧に対応し、理解と納得を得られるよう図られている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>面会時のほか、ホームでの暮らしぶりが詳しくわかる様に毎月お便りの作成と、行事等の様子がわかる様に、2ヶ月毎に「上磯通信」を作成し伝えており、家族にも好評である。基本的に金銭はホームでは預からない事とし、すべて立替で対応している。毎月領収証として、使用明細金額をお知らせし了承を得ている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時に声がけし、意見の汲み取りを行なっている。契約時に、苦情受付の機関などについて説明も行ってあり、玄関には苦情受付ボックスも設置している。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職でやむを得ない場合、入居者への影響を考慮して対応を熟慮し、配慮されている。新しい職員は、入居者に早く馴染んでいただけるように、挨拶をして回ったりしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修に積極的に参加されており、職員の希望も受け入れられている。職員会議で復命研修も行われている。</p>		
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域のグループホーム協会の研修に参加したり、近隣のグループホームと行事などの際、相互訪問したりしている。また、他事業所との懇親会に参加する事で情報交換を行い、サービスの向上に努めている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用前にホームの見学をして頂いたり、事前訪問をし本人・家族の意向の把握に努めている。入居者が新しい生活に慣れるまでの入居当初は、頻回に面会に来て頂けるように家族の協力を得ている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者は人生の先輩として接しておられ、昔からつちかった生活の知恵や特技などを教えてもらい、互いに支えあう関係を築かれている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
<p>1. 一人ひとりの把握</p>					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の会話や家族からの情報をもとに、一人ひとりの意向を把握している。意思疎通が困難な入居者に対しては、表情や仕草から思いを汲みとられるよう努力されている。</p>		<p>本人のこれまでの暮らしの中での趣味や特技、嗜好等を更に情報収集されてアセスメント用紙に記入されることで、全職員が把握し共通の認識でケアに生かせることを期待したい。</p>
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>全職員がいつでも課題等について気づいた時に専用のノートに意見やアイデアを記入し、それをもとにケアカンファレンスが行われており、処遇改善や介護計画作成が行われている。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6ヶ月毎に定期的に計画の見直しを行っている。そのほか状態に変化があれば随時見直しが行われている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>受診時の送迎を行ったり、入居者が希望する場所に出かける等、ニーズに応じた柔軟な対応を行っている。希望があれば家族の宿泊にも対応できる体制にある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する、かかりつけ医となっている。通院が困難となり、やむを得ず医療機関を変更する場合は、本人と家族の了解を得て対応されている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に書面にて説明が行われており、重度化した場合の対応については、段階を踏んで話し合いを持ち、終末ケアプランを作成し同意を頂いている。それをもとにケアの共有を図り対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法に基づいた勉強会を実施し、全職員の理解を深める取り組みをされている。日々の関わりに関しても、会議等で話題に出して話し合われている。広報誌においても写真や名前を載せてもよいか、あらかじめ本人と家族の同意を得ている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースを把握しており、その人に合わせた対応をしている。起床時間などについても、本人の生活習慣でゆっくりしたいということであれば、尊重して対応されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>昼食時は、同じ食事を職員が日替わりで食べている。苦手なメニューには代替えのもので対応し、入居者に合わせて食べやすい大きさにする等の配慮がされている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>基本的に週3回の入浴となっているが、希望があれば毎日でも入れる体制となっている。車いす利用の方は2名で介助し、入居者が安心して入れるよう、安全に対応している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>食事の盛り付けや後片付け、居室のそうじなど、生活の中でその人の能力に合った役割を持って頂いている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>入居者の意向と体力等を考慮しながら、散歩や買い物、ドライブに出かけている。季節ごとの外出行事も計画されて入居者の楽しみになるように支援されている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を実施し、全職員の理解を深める取り組みを行っている。会議等でも話題に上げ、日々のケアでの実例をあげて確認を行っている。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の戸締り以外は玄関に鍵をかけずに対応されており、見守りも十分にされている。職員もその必要性について理解されている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年3回、消防署の立ち会いと、夜間想定、今年度から消防団の方にも参加していただき、地域住民の協力を得て行っている。		大地震の発生に備えての対応方法や実地訓練などについても取り組みに期待したい。又、非常食についても今後の課題として検討されたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は園長が立てており、定期的に栄養士からアドバイスを受けている。食事摂取量や水分摂取量が身体的・精神的な理由から不安定な人には、重点的に把握する体制になっている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ、疥癬、ノロウイルス等、各種の感染症マニュアルが整備されている。勉強会を全職員で実施し、確認と取り組みが行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>職員の会話のトーンは穏やかであり、足音にも配慮されている。気温に合わせた換気と湿度調整がされ、入居者が心地よく過ごせるように配慮されている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の使いなれた馴染みの家具や、その人が必要とする生活用品が持ち込まれ、入居者は思い思いに過ごされている。又、本人の希望により、居室でカメなど生き物を飼育して楽しんだりされている。</p>		

 は、重点項目。